# 1枚の画像から、完成CMを作る




## 今回の完成品

架空の革製カードケースFOLDの15秒CMです。今回用の新しい商品画像から、全体・質感の寄り・ブランド表示の3カットを生成しました。過去作の映像、声、台本、音楽は使っていません。

## まず完成形を見る

https://proposal.video-studio.app/photo-cm-fresh-20261006/
キット内のcompleted/fold-cm-15s.mp4でも確認できます。

## 本編と同じ工程

商品画像 → 同じ画像の全体と寄り → H3で3本生成 → 商品を確認 → 5秒ずつ編集 → 後から文字と新しい音を入れる。

# 01 ¦ 最初に3つの見せ方を決める

## 使った商品画像

キットのassets/fold-master.pngが出発点です。ImageGenで新規作成した練習用商品で、実在商品の販売広告ではありません。実案件では店舗から使用許可のある商品写真とブランド表記を受け取ります。

## 3カットの設計

0-5秒：全体の形が分かるカット。
5-10秒：革の質感と縫い目が見える寄り。
10-15秒：商品全体とブランド名。

## Codexに最初に渡す指示

「この商品写真1枚を使って15秒CMを作って。全体・質感の寄り・最後の商品名という5秒×3カットに分ける。同じ写真を切り出して使い、形・色・スロット数を増減しない。動画生成前に3カットの指示案と入力画像を提示して。文字は生成映像に含めず、編集で後から入れる。」

## 同じ画像から切り出す

本例のfold_01-start.pngとfold_03-start.pngは全体、fold_02-start.pngは寄りです。別商品への描き直しや新しい手持ち映像は加えていません。

# 02 ¦ H3に穏やかな動きを指定する

## 実際に使った環境

ローカルComfyUIのMiniMax
H3、I2V、864×480、5秒指定、4ステップ、Turbo LoRA。各出力は124フレーム/24fpsの約5.167秒でした。完成版では各先頭5秒を使用しています。

## 指示ファイルをそのまま読む

prompts/fold_01.txt：商品を動かさず、横方向の穏やかな視点変化。
prompts/fold_02.txt：同じ表面を寄りで見せ、質感と縫い目へピントを移す。
prompts/fold_03.txt：少し引き、左上に後入れ文字の余白を残す。英語の実プロンプト全文はキットに同梱。

## Codexへの生成指示

「接続済みのH3画像→動画機能に、各start画像と同名プロンプトを渡して、5秒ずつ3本生成する。呼び出し先・費用・設定を確認し、新しい有料サービスへの切替は確認する。戻った動画を保存し、成否が不明な呼び出しを自動再送しない。」

## 生成機能は別途必要

キットにH3モデル本体やサービス認証はありません。Codexに文章を渡すだけでH3が自動接続されるわけではありません。ローカルGPU環境または対応サービスの用意が必要です。再生成は同じ動きを保証しません。

# 03 ¦ 動きより先に、商品を確認する

### 今回の採用チェック

各カットを最初・途中・最後で止める。ケースが1個、表面のスロットが2本、丸い輪郭と周囲の縫い目、赤茶色の素材が自然につながるかを見る。独立担当も動画の実フレームを確認しました。

### Codexに検品させる指示

「各動画を複数時点で静止画にして元写真と比較する。形・数・輪郭・色・縫い目の不自然な変化を列挙する。不合格の理由を明記し、必要なカットだけ修正する。生成画像なので元写真の画素そのものが保存されるとは説明しない。」

### 実際に得られた動き

1本目は控えめな視点変化、2本目は質感とピントの変化、3本目は穏やかな引きです。依頼した動きと出力が完全一致したとは扱っていません。

### 商用案件の確認

文字・商品ロゴ・構造は依頼者へ完成品で確認してもらいます。実商品の見え方が違う場合、短く切れば必ず解決するとは限りません。写真だけの編集へ戻すか、撮影が必要かを判断します。

# 04 ¦ 15秒へ編集し、後から文字を入れる

## 本例の編集

3本の先頭5秒を順番に結合。1080p/30fpsへ書き出しました。H3生成の元解像度は864×480で、ネイティブ1080p生成ではありません。速度変更・映像ループ・静止画埋めはありません。

## ブランドとコピー

最後のカット開始0.6秒後からFOLDと「毎日を、身軽に。」を左上へ表示。商品と文字が重ならない位置に置きます。本例の音は新しく合成した15秒の音床です。

## Codexへの編集指示

「同梱の3本から各先頭5秒を等速で使い、15秒CMを作る。最後にFOLDと『毎日を、身軽に。』を後入れし、文字と商品を重ねない。音量を確認し、1080p/30fpsで出力。全尺デコード、15秒、文字配置、音の存在を検証して。」

## 同梱素材で編集を再実行

キットを展開し、README.txtを読む。WindowsのPython、FFmpeg、Pillow・NumPy・OpenCVと指定フォントが必要です。render_cm.pyはH3の再生成なしに同梱3本を再編集します。完成MP4をそのまま再生するだけなら依存環境は不要です。

# 05 ¦ 制作代行の見本として提案する

## 見本にするもの

元写真1枚と完成15秒を並べます。「自分で商品を持つ」以外に、店から素材を支給してもらい短い広告を制作するサービスの見本にできます。本例は受注・利益を実証した事例ではありません。

## 最初の提案文

「商品の写真を1枚お預かりし、15秒の商品紹介動画を作る制作サービスです。見本はこちらです。商品名・ロゴ・掲載場所・伝えたい特徴を確認して、動きの方向と修正範囲をご相談します。完成品で商品が正しく見えるかを確認いただきます。」

## 見積り前に決めること

縦横比、掲載先、素材の権利、文字・ロゴの正本、生成するカット数、修正回数、納期、納品形式。価格は今回の架空商品から導けないため設定していません。

## キットの範囲

新商品画像、実プロンプト3本、採用動画3本、今回の新しい音、完成15秒、編集プログラム、使い方を同梱。モデル・APIキー・個人データ・旧作は含みません。

## 工程の限界

今回の生成待ちと生成処理の合計は約217秒でした。企画・確認・編集・修正を含む人の総作業時間ではありません。再生成や実案件での品質・売上は保証していません。